

IAECE 2025 News Letter

International Association of
Early Childhood Education

一般社団法人 国際幼児教育学会
会報 81 号

2025.12
<http://www.iaece.org>



- P.1 卷頭言 上田 敏丈
- P.2 新体制報告 櫻井 貴大
- P.3 学会功労賞 受賞者報告 福井 逸子／上田敏丈
- P.4 学術貢献賞 受賞者報告 程 学琴
- P.5 研究奨励賞 受賞者報告 小島 梨沙
- P.6 名誉会員 受賞報告 山岡 テイ／浅野 功義
- P.7 第46回ロサンゼルス大会を終えて
- P.19 第47回静岡大会のお知らせ
- P.21 2024 年度決算報告 / 2025年度予算
- P.22 委員会報告
- P.23 支部報告
- P.24 部会報告／事務局より



これからの国際幼児教育学会に向けて 名古屋市立大学 上田 敏丈

この度、国際幼児教育学会会長に任命されました、名古屋市立大学 上田敏丈です。前中坪史典会長の時から理事となり、機関誌編集委員長、定款規程編集委員長を経て、2025年より会長となることになりました。

私自身、国際幼児教育学会には、2000年頃より会員となりました。筆頭著者として、初めて査読論文が掲載されたもの本学会であり、その連絡を受けたときの喜びは今も思い出します。その後、2015年から機関誌編集委員、2019年から機関誌編集委員長となりました。機関誌編集委員長として、本学会の機関誌をオンラインでも読めるようにすることというミッションを受け、過去の機関誌を集め、全て裁断し、1論文ずつPDF化して、J-stageへとアップいたしました。現在、J-stageでは、第1巻から現在まで全ての論文を読むことができる体制となりました。

このように長く関わってきている学会ではございますが、会長とすることで、これまで歴代の先生方の思いを受けつつ、改めてその責任の重さを感じ身の引き締まる思いです。

さて、ご承知の通り現在の日本は少子化・高齢化の状態にあり、研究者の団体である多くの学術団体においても、若手会員数の減少が課題となっております。若手会

員数の減少は、将来的に会員数の減少へと繋がっていきます。一般社団法人である本学会も、会員による会費によって、一年間の運営を行っていることから、今後、どのような方向に進むべきかという課題を抱えております。

そもそも学会とは、共通の領域にいる様々な研究者と知の交流を行い、議論し、それらを論文という形で認め合うことによって、社会へ寄与していくためのものです。これまで、学会は紙媒体と対面を中心に行われ、密接で閉鎖的な空間の中で活動していました。しかし、インターネットやICTといった技術革新は、学術知のオープンアクセス化・フリー化の方向性へと進み、開放的な知の集いの場となりつつあります。このような状況で、国際幼児教育学会はどのように進むべきか、改めて考える必要性を感じております。

従いまして、任期中に次の課題に取り組んでいくことを考えております。

- 1) 国際幼児教育学会の定款に基づくビジョンの策定
- 2) ビジョンに基づくアクションプランの策定
- 3) 国際幼児教育学会として学術知の交流の活性化

今後、国際幼児教育学会が会員のみなさまにとって有益な学会となるよう全力を尽くして参ります。どうぞ宜しくお願ひいたします。

2025年度一般社団法人国際幼児教育学会新体制の報告

事務局 愛知教育大学 櫻井 貴大

この度、国際幼児教育学会は上田敏丈会長（名古屋市立大学）のもと、新体制でスタートいたしました。

新事務局は、以下の点を重要目標として活動を推進いたします。

1. 海外研究者との連携を強化し、会員増加とグローバルな活動を促進。

2. 年次大会をさらに充実させ、活発な議論の場を提供。

会員の皆様が誇りを持てる学会を目指し、より迅速かつ効果的な運営に努めてまいります。皆様のご理解と、より一層のご協力・ご指導を心よりお願い申し上げます。

理事	上田 敏丈	名古屋市立大学	会長
理事	森 貞美	麗澤大学	副会長・海外研修委員会委員長
理事	劉 郷英	福山市立大学	副会長・涉外委員会委員長
理事	秋田 喜代美	学習院大学	
理事	天野 美和子	東海大学	学術貢献賞推薦委員会委員長
理事	濱名 潔	認定こども園立花愛の園幼稚園	機関誌編集委員会副委員長
理事	伊勢 慎	福岡県立大学	定款・規程委員会委員長・事務局長補佐
理事	加藤 望	名古屋学芸大学	会報委員会副委員長
理事	勝浦 真仁	同志社女子大学	学術貢献賞推薦委員会副委員長
理事	北野 幸子	神戸大学	
理事	古賀 琢也	千葉明徳短期大学	事務局長補佐
理事	久世 安俊	近畿大学九州短期大学	音楽部会長・九州地区
理事	椋田 善之	関西国際大学	機関誌編集委員会委員長
理事	二宮 貴之	聖隸クリストファー大学	2026大会実行委員長
理事	野口 隆子	東京家政大学	研究委員会委員長
理事	岡本 礼子	廿日市市認可保育園アトリエREIレイこども舎	会報委員会委員長
理事	境 愛一郎	共立女子大学	情報委員会委員長
理事	櫻井 貴大	愛知教育大学	事務局長
理事	上田 浩平	近畿大学九州短期大学	事務局長補佐
理事	内田 千春	東洋大学	
理事	山田 千明	山梨県立大学名誉教授	絵本部会長
監事	辻谷 真知子	お茶の水女子大学	
監事	上村 晶	桜花学園大学	
評議員	伊藤 真	広島大学大学院	
評議員	岡花 祈一郎	聖心女子大学	
評議員	渡邊 真帆	福山市立大学	

2025年 学会功労賞 受賞者報告

International Association of
Early Childhood Education

学会功労賞：神戸親和女子大学 福井 逸子

選考理由

福井逸子氏は、2002年に本学会入会以降、「国際幼児教育研究」ジャーナル編集委員、国際幼児教育学会事務局長、事務局長補佐、研究委員、第44回大会および第46回大会実行委員会事務局長など、数々の役職を歴任されました。また、宇都宮市から神戸市への事務局移転にも多大なご尽力をいただきました。さらに、ご自身が企画された「自主ワークショップ」は、その斬新的な試みが新たな会員募集へも繋がりました。以上の理由から、同氏に学会功労賞を授与します。

会長 中坪 史典

「学会功労賞」受賞者挨拶

私は、この度、本学会において、学会功労賞を頂くこととなりました。学会に入会して、20数年経ちますが、まだ、現役の研究者、大学教員としての任務も残っておりますので、今後は、一会员として、若い理事の先生方の御活躍を下支えできればと願っております。ここまで、本当にありが

とうございました。本学会で出会い、ご指導頂きました、先輩の先生方に心から感謝申し上げます。今の私があるのは、本学会のお陰だと思っております。この学会の益々の発展を心から願ってやみません。

学会功労賞：名古屋市立大学 上田 敏丈

選考理由

上田敏丈氏は、2006年に本学会入会以降、機関誌編集委員会委員長、定款・規定編集委員会委員長など、数々の役職を歴任されました。また、機関誌編集委員長の時には、J-stageへの利用登録、過去のバックナンバーを含む論文すべてのJ-stageへ投稿し、本機関誌のオンライン化を果たすなど、多大なご尽力をいただきました。さらに、機関誌からの研究奨励賞や学会発表賞の設立などにも貢献されました。以上の理由から、同氏に学会功労賞を授与します。

会長 中坪 史典

「学会功労賞」受賞者挨拶

この度は、栄誉ある国際幼児教育学会 学会功労賞を授与いただき、皆様方に誠にお礼申し上げます。国際幼児教育学会へは、博士課程を単位取得後退学し、就職したころに入会いたしました。その後、2015年から機関誌編集委員会委員となり、2019年より理事となると同時に紀要編集委

員委員長となりました。その中で、投稿者をエンカレッジする機関誌であること、また、これまでの掲載論文をJ-stageへと公開いたしました。長年の活動をこのような活動で評価いただき、改めて心より感謝申し上げます。今後とも学会発展のために微力ながら尽力してまいります。

2025年 学術貢献賞 受賞者報告

International Association of
Early Childhood Education

学術貢献賞：安吉県教育局安吉遊戯研究センター 程 学琴

程学琴氏は、中国・浙江省安吉県で展開されている幼児教育プログラム「安吉遊戯（Anji Play）」を創り上げた教育者です。このプログラムは、子どもの主体的な遊びを通して、創造性・協働性・自己調整力を育む教育モデルとして、中国国内のみならず、世界 140 か国・地域から注目を集めています。氏は、アメリカの主要大学をはじめとする世界各地で講演を行い、「安吉遊戯（Anji Play）」の理念と実践を国際的に発信してこられました。

2019 年には著書『安吉幼儿教育：放手游戏 发现儿童（Anji Play：子どもの遊びを解放し、子どもの世界を発見する）』を出版し、2020 年には世界経済フォーラム（WEF）の報告書において、未来の教育モデルを示す世界 16 事例の一つとして安吉遊戯が紹介されました。

2024 年度には本学会が主催する中国の幼児教育・保育研修において、安吉遊戯の実践園の視察と「日中国際シンポジウム」が開催され、国際的な学術交流の深化が図られました。

このように、程氏の取り組みは、幼児教育の理論と実践の架け橋として国際的な影響を与えており、本学会の理念を体現するものとして、2024 年度学術貢献賞に選出されました。

学術貢献推薦委員会 委員長 天野 美和子

（選考理由）

「学術貢献賞」受賞者挨拶

尊敬的日本国际幼儿教育学会同仁

衷心感谢日本国际幼儿教育学会授予我学术贡献奖！这份荣誉不仅是对个人工作的肯定，更是对“安吉游戏=Anji Play”理念实践价值的认可，以及中日幼儿教育合作深远意义的彰显。日本拥有众多卓越的学者，却将这份荣誉赋予我，这份信任让我既感荣幸又深知责任重大。

特别感谢刘乡英教授的鼎立支持。刘教授亲赴安吉考察“安吉游戏=Anji Play”幼儿园，并策划中日线上、线下研讨会，为两国幼儿教育的合作开辟了新模式。她的专业精神与实际行动，为中日幼儿教

尊敬的日本国际幼儿教育学会的皆様

この度、日本国际幼儿教育学会より「学術貢献賞」を授与していただき、心より感謝申し上げます！

この栄誉は、私個人の仕事に対する肯定だけでなく、“安吉遊戯=Anji Play”理念の実践的価値に対する評価であり、そして日中両国の幼児教育協力の深遠な意義の顕彰でもあります。日本には数多くの卓越した学者がいるのに、この栄誉を私に与えてくれたこの信頼に、私は光栄に思うとともに、責任の重さを痛感しています。

特に劉鄉英教授の全力支援に感謝します。劉教授は自ら安吉に来て“安吉遊戯=Anji Play”幼稚園を視察し、日中のオンライン、オフラインのシンポジウムを企画し、両国の幼児教育協力に新しいモデルを開拓しました。彼女の専門的精神と実際の行動が、日中の幼児教育にしっかりと

育架起了坚实的桥梁。

日本在“自然教育”“生活教育”等领域的深厚积淀，始终是我重要的学习方向。未来，我将以此次获奖为契机，继续深化中日学前教育对话，融合“安吉游戏=Anji Play”实践与日本幼儿教育精髓，共同探索幼儿教育的新路径。同时，期待与学会同仁及全球学前教育工作者携手，打造更具包容性和创新性的幼儿教育体系，为儿童的美好童年贡献力量。

再次感谢学会的信任与支持！让我们以学术为纽带，为世界幼儿教育发展注入更多活力！

た架け橋を築きました。

日本の「自然教育」「生活教育」などの分野での深い蓄積は、常に私にとって重要な学びの模範です。これからも、今回の受賞を契機に、日中幼児教育の対話を深め、“安吉遊戯=Anji Play”的実践と日本の幼児教育の精髓を融合させ、一緒に幼児教育の新しい道を探ります。同時に、学会の皆様や世界中の幼児教育関係者と手を携えて、より包容性と革新性のある幼児教育システムを構築し、子どもたちの素敵なお子様も時代に貢献したいと思います。

日本国际幼儿教育学会の信頼と支援に改めて感謝申し上げます！学術を絆として、世界の幼児教育の発展にもっと活気を入れようと思います。

劉鄉英 訳

2025年 研究奨励賞 受賞者報告

International Association of
Early Childhood Education

研究奨励賞：お茶の水女子大学 小島 梨沙

ルワンダにおける乳幼児期の家庭学習に及ぼす 社会経済的地位の影響

The Impact of Family Socioeconomic Status on
Early Home Learning in Rwanda

（審査経緯）

国際幼児教育研究31号には8本の原著論文が掲載されており、そのうち研究奨励賞の対象となるのは6本の論文であった。これらを委員会で投票した結果、小島氏の受賞となった。

機関誌編集委員会委員長 棚田 善之

「研究奨励賞」受賞者挨拶

この度は、研究奨励賞という栄えある賞を賜りましたこと、誠に光栄に存じます。発展途上国における3歳未満の乳幼児教育に関する研究を、このように高く評価していただきましたことに、深く感謝申し上げます。本賞の受賞は、乳幼児期の教育の重要性を社会に発信し続ける励みとなるとともに、今後の研究の深化に向けた大きな力となるものです。

本研究は、近年国際的に注目が高まる乳幼児期教育の中でも、特に受胎期から2歳までの「最初の1,000日」に着目し、ルワンダ共和国を対象として、3歳未満児に対する家庭での働きかけ(相互作用や刺激の提供など)と社会経済的背景の関連を分析したものです。2019年の人口動態保健調査のデータを用いて、0歳から2歳までの各年齢層

について分析を行った結果、母親の学歴が高いほど、子どもへの適切な働きかけが行われている割合が有意に高いことが明らかになりました。特に、母親が初等教育以上を修了している家庭においてその傾向が顕著であり、中でも中等教育以上を修了している場合に最も高い可能性が示されました。これらの知見は、発展途上国における乳幼児期の教育支援策として、女子教育、とりわけ女子の中等教育の修了推進が重要であることを示唆するものです。

本研究には、指標内容の精査や働きかけの項目ごとの分析など、今後取り組むべき課題も残されておりますが、今回の受賞を励みに、発展途上国の乳幼児の健全な発達と教育の質向上に資する研究の一層の推進に努めてまいります。

2025年 名誉会員受賞報告

International Association of
Early Childhood Education

情報教育研究所 所長 山岡 テイ

（選考理由）

山岡テイ氏は、長年常任理事として学会運営に携わるとともに、20年以上にわたって研究委員会委員長を務めるなど、学会活動の発展にご尽力いただいたことが認められ、2019年学会功労賞を授与されました。この度本学会役員を退かれたことから、同氏を名誉会員に推挙します。

会長 中坪 史典

「名誉会員」受賞者挨拶

このたびは、当学会の名誉会員に推挙されまして、まことに恐縮に存じます。本学会の研究会運営や年次大会での諸活動を通して、多くの先生方や会員の皆様方と共同研究を行う機会にも恵まれ

ましたことに感謝しております。今後も、さらに本学会の一層の発展と会員相互の学際的な交流が続行できますようにと願っております。

ひので保育園 浅野 功義

（選考理由）

浅野功義氏は、長年常任理事として学会運営に携わるとともに、事務局長として学会活動の発展にご尽力いただいたことが認められ、2012年学会功労賞を授与されました。この度本学会役員を退かれたことから、同氏を名誉会員に推挙します。

会長 中坪 史典

IAECE Award Winner Report 2025



一般社団法人
国際幼児教育学会

International Association
of Early Childhood Education

2025 年度

一般社団法人 国際幼児教育学会 第46回大会を終えて



テーマ 幼児教育の充実：コラボレーションのための戦略

会期 2025年9月18日(木)～21日(日)

会場 ロサンゼルス・ピアスカレッジ

M.A, M.S, Conference Coordinator, Chair, Professor, LAPC
Patricia Doelitzsch

IAECE 2025
46 Annual Convention

The 46th annual IAECE (International Association of Early Childhood Education) *Enhancing Early Childhood Education Strategies for Collaboration* was held at Los Angeles Pierce College, in Woodland Hills California, USA. This was the first time the conference was held on the mainland of the US, and is the largest conference the college has hosted. The Child Development and Early Childhood Education department professors, and the Child Development Center Preschool were honored to host this conference, and invite US researchers and experts to share information, while also learning from the international presenters, and learn about the research being conducted in other countries. This conference was an important experience for the students of Los Angeles Pierce College, offering them an international academic experience few have had the opportunity to attend. The Child Development and Early Childhood Education department coordinated with Takase Sensei, in the Pierce language department, to use the students who are learning Japanese, to attend as translators and guides, and practice their Japanese with native speakers. The reaction of the language students who participated was overwhelming. More students are enrolling in the upper levels of Japanese language classes, and all of them were inspired to visit, if they haven't already been. Many are still working on how they can attend next year's conference.

The pre-conference activities began with a tour of the local mentor preschools. Over fifty participants filled 2 buses, and visited preschools that have been designated as exemplary, and are used by the Los Angeles Pierce College Child Development and Early Childhood education department, as demonstration sites. Each site showed a different approach to early childhood education. Each of these schools

highlighted relationship-based interactions, and showcased educators who are committed to inclusion and diversity, and creating an environment of trust and connection through play based interactions.

The conference opened on Friday, September 19, 2025, and lasted through Saturday September 20, 2025. Friday started with a welcome from the chair of Child Development, Patricia Doelitzsch, and coordinator Miyuki Yatsuya-Dix. Opening ceremonies were presented by Dr. Nakatubo, IAECE President. The keynote presentation from Full Circle Consulting Systems, presented by Senta Greene, and Dr. Van Antwerp. was an interactive experience of self reflection, relationship based concepts, and well being.

The conference then began with research poster presentations in the beautiful Child Development Preschool courtyard, and workshops, symposiums and oral research presentations in the new Child Development building. There were many choices for individuals to attend the presentations they were most interested in learning about.

Workshop highlights included a presentation of Japanese culture; Learning the 5 Ryōiki of Early Childhood Education through Paper Cup Activities, which explored five developmental aspects, known as the 5 Ryōiki: Health, Human Relationships, Language, Environment, and Expression. An art for early childhood workshop, which explored living lines, colors of the heart. The beginning and



the end. The final large workshop was a two part, engaging, and participation based music workshop: A Musical Bridge Connecting Japan and the United States. Part 1: *Eurythmics Activities*, Part 2 explored *Music Expression*.

All events were well attended, as over 188 tickets were sold, many individuals came to both days of the conference. The first question US participants asked was “when will this happen next year?” When they were told it would be in Japan, several started thinking about fundraisers in order to attend. The US students and teachers who attended are still talking about the information they learned, and the wonderful experience of meeting and interacting with the international researchers. I feel real connections were made, and inspiration was born.

The 47th annual conference will be hosted by Ninomiya, Takayuki of Seirei Christopher University. Takayuki sensei

presented his video for the 47th annual conference in Hamamatsu, Shizuoka, Japan. Dr. Ueda, the incoming President of IAECE closed the conference with words of gratitude and excitement to attend the next year in Japan.

Post conference, international attendees were invited to attend the last home game for the Los Angeles Dodgers, featuring Shohei Ohtani. Although the Dodgers lost, everyone had a great time touring the stadium, and cheering for the team.

This conference was an overwhelming success. The importance of including and learning from others from different cultures, backgrounds and experiences is important in our quest to provide the best environments for young children and their families. Collaborating, sharing research and ideas is the best way to promote growth and relationships, ensuring all children and their families thrive.

第46回国際児童教育協会（IAECE）年次大会「協働のための児童教育戦略の強化」が、米国カリフォルニア州ウッドランドヒルズにあるロサンゼルス・ピアスカレッジで開催されました。本大会が米国本土で開催されるのは今回が初めてであり、同カレッジが主催した中でも最大規模の大会となりました。児童発達・児童教育学科の教授陣と附属のチャイルドデベロップメントセンターは、本大会の開催を光栄に思い、米国の研究者・専門家を招いて情報共有を行うと同時に、国際的な発表者から学び、他国で行われている研究について学ぶ機会を提供しました。この大会はピアスカレッジの学生にとって貴重な経験となり、国際的な学術体験を経験する稀有な機会となりました。児童発達・児童教育学科はピアスカレッジ語学学科の高瀬先生と連携し、日本語を学ぶ学生を通訳・案内役として参加させることで、日本語のネイティブスピーカーと会話する語学実践の機会を学生に提供しました。参加した語学学生の反応は圧倒的なものでした。上級日本語クラスへの登録者が増加しており、未参加の学生も皆、この学会への参加意欲が湧きました。多くの学生が来年の学会参加に向けた方法を模索中です。

カンファレンスはまず、前日の地域メンター保育施設見学から始まりました。50名以上の参加者が2台のバスに分乗し、模範的と認定され、ピアスカレッジ児童発達・児童教育学科の実習施設として活用されている保育施設を訪問しました。各施設は異なる児童教育アプローチです。どの園も関係性に基づく相互交流を重視し、インクルージョンと多様性に尽力する教育者がいます。遊びを通じた交流で信頼と絆の環境を創出する姿勢を実現している施設です。

学会は2025年9月19日（金）に開幕し、20日（土）まで開催されました。初日は児童発達学科長パトリシア・ド

エリツツシュとコーディネーターの八谷美幸による歓迎の挨拶で始まり、IAECE会長中坪教授が開会式を執り行いました。基調講演はフルサークル・コンサルティング・システムズより、センタ・グリーン氏とヴァン・アントワープ博士が登壇し、自己内省、関係性に基づく概念、ウェルビーイングをテーマにした双方向型体験セッションとなりました。続いて美しい児童発達学部のチャイルドデベロップメントセンターの中庭で研究ポスター発表が開始され、新児童発達学部棟ではワークショップ、シンポジウム、口頭研究発表が行われました。参加者は各自の関心分野に応じた発表を自由に選択し参加することができました。

ワークショップのハイライトには、日本文化の紹介「紙コップ活動で学ぶ児童教育の五領域」が含まれ、健康・人間関係・言語・環境・表現という五つの発達領域を探求しました。児童向けアートワークショップでは「生き生きとした線」「心の色彩」「始まりと終わり」を探求し、最終の大規模ワークショップは参加型音楽ワークショップ「日米を結ぶ音楽の架け橋」で、第1部：オイリュトミー活動、第2部：音楽表現を探求する二部構成となりました。

全ての企画が盛況で、188枚以上のチケットが販売され、両日とも多くの参加者が出席しました。米国参加者からまず寄せられた質問は「来年はいつ開催されますか？」でした。日本での開催と伝えると、数名が参加資金調達について考え始めました。参加した米国人学生・教員は今も、学んだ情報や国際的な研究者との交流という素晴らしい体験について語り合っています。真の繋がりが生まれ、新たな刺激が生まれたと感じています。

第47回年次大会は聖靈クリストファー大学の二宮貴之氏が主催します。二宮先生は第47回大会（日本・静岡県

浜松市開催）に向けた動画を披露しました。IAECE次期会長の上田教授は、来年の日本開催への感謝と期待を込めて閉会の辞を述べました。

大会終了後、参加者らは大谷翔平選手が出場するロサンゼルス・ドジャースの最終ホームゲームに招待されました。ドジャースは敗れたものの、全員がスタジアム見学やチームへの声援を楽しみ、素晴らしい時間を過ごしました。

本大会は圧倒的な成功を収めました。異なる文化・背景・経験を持つ人々を包含し、そこから学ぶことの重要性は、乳幼児とその家族に最良の環境を提供するという我々の使命において不可欠です。協働し、研究とアイデアを共有することが、成長と関係性を促進し、全ての子どもとその家族が健やかに育つことを保証する最良の方法なのです。

IAECE 2025
46 Annual Convention

L.A. Pierce College Child Development Center Miyuki Yatsuya-Dix

Greetings from Los Angeles!

Did you all enjoy the **46th Annual IAECE Conference at Los Angeles Pierce College**? What was your most memorable experience during your visit to LA?

I was truly honored to help prepare for and attend this year's conference, and to witness the wonderful collaboration between IAECE and Los Angeles Pierce College.

It has been two years since **Dr. Nakatsubo** first asked me to host the IAECE Conference at Pierce. I immediately thought, *what a wonderful opportunity for collaboration between our two organizations, united by a shared goal of advancing Early Childhood Education!*

I reached out to our Child Development Department Chair, **Patricia (Trish) Doelitzsch**, to see if this would be possible. At that time, none of us realized how complex the planning process would be — or how rewarding the entire journey would become — leading up to our opening day on **September 19, 2025**.

A heartfelt thank you to **Trish** for her leadership, dedication, and vision in making the IAECE Conference possible and successful.

The 46th Annual IAECE Conference was the result of tireless teamwork and collaboration among committee members on both sides — **Trish-sensei, Koga-sensei, Fukui-sensei**,

Ninomiya-sensei, Ueda-sensei, and myself. Together, we navigated challenges across time zones, languages, and cultures, and ultimately created an inspiring and memorable event.

I would also like to express my sincere gratitude to the **IAECE/LA Pierce core planning team**, all **Child Development Department faculty** — Stacey, MaryAnn, Arma, Lila, Traci, Heather, and Carrie — and our **wonderful volunteers** — Michelle, Phyllis, Lori, Hiroko, Amy, and Kuniko.

Each of them worked tirelessly behind the scenes in the week leading up to the conference and provided invaluable support throughout the event. A special thank you as well to **Takase-sensei**, Professor of Japanese at LA Pierce College, who engaged her students in helping participants practice Japanese through real-life conversations during the conference. We could not have achieved such a successful event without everyone's passion, dedication, enthusiasm, and kindness.

I also want to recognize the **educators and students from Japan** for their courage and effort in traveling to Los Angeles and presenting their research papers in English — an admirable and inspiring accomplishment! I know how challenging it can be to express your ideas in another language (even with the help of Google Translate!). Thank you for sharing your expertise and creativity with us — we



learned so much from your presentations. On September 18, we offered a variety of **school visits**, and I hope you enjoyed exploring the many different approaches and programs across the San Fernando Valley. I was especially proud to share our own **LA Pierce College Child Development Center** at the end of the tour. I was also delighted to hear that many educators from Japan who stayed at **The Anza Hotel** had a wonderful experience during their visit — and I hope you had fun shopping at **Trader Joe's**! And how about the **Dodgers**? We all cheered “Go Dodgers!” on September 21 — even though the team lost that day

game, it was still such a fun and unforgettable experience!

I'm so pleased that the **46th Annual IAECE Conference** was well received. I hope each of you left with lasting memories, meaningful connections, and new inspiration from your time here in Los Angeles.

Let me close with this:

My wish is for this conference to continue serving as a truly **global bridge**, connecting educators, students, and communities — and most importantly, connecting **all children** through our shared commitment to Early Childhood Education. With heartfelt appreciation,



口サンゼルスより挨拶申しあげます。第46回IAECE年次大会（ロサンゼルス・ピアス・カレッジ開催）をお楽しみいただけましたでしょうか？

皆さまのロサンゼルス滞在中、特に印象に残った出来事は何でしたか？本年の大会の準備と参加に携わることができ、またIAECEとロサンゼルス・ピアス・カレッジの素晴らしい連携を目の当たりにできたりを、心より光栄に思っております。

中坪先生からピアス・カレッジでのIAECE大会開催のお話をいただいてから、早くも2年が経ちました。その瞬間、「幼児教育の発展という共通の目標を掲げる両組織にとって、素晴らしい協働の機会になるに違いない」と直感しました。

私はすぐに、当学科（チャイルド・ディベロップメント学科）の学科長であるパトリシア（トリッシュ）・ドリッッシュ先生に相談しました。

当時は、準備の過程がこれほど複雑で、そしてこれほど充実したものになるとは、誰も予想していなかったと思います。

2025年9月19日の開会日を迎えるまでの道のりは、まさにかけがえのない経験となりました。

この場をお借りして、トリッシュ先生のリーダーシップ、ご尽力、そして

ビジョンに心より感謝申し上げます。第46回IAECE年次大会は、日米両国の委員の皆さまのたゆまぬ努力と協働の賜物です。

トリッシュ先生、古賀先生、福井先生、二宮先生、上田先生、そして私自身も含め、時差や言語、文化の違いを乗り越えながら、心に残る感動的な大会を創り上げることができました。

また、IAECE／LAピアスの中核メンバー、チャイルド・ディベロップメント学科の教員（ステイシー、マリアン、アルマ、ライラ、トレイシー、ヘザー、キャリー）、そして素晴らしいボランティアの皆さま（ミシェル、フィリス、ローリ、ヒロコ、エイミー、クニコ）にも、心からの感謝を申し上げます。

大会直前の1週間、そして当日も、皆さまが舞台裏で惜しみないサポートをしてくださったおかげで、成功に導くことができました。

また、ピアス・カレッジの日本語教授である高瀬先生にも特別な感謝を申し上げます。

先生の学生たちは、参加者の皆さまが実際の会話を通して日本語を練習できるよう、積極的に関わってくださいました。

皆さま一人ひとりの情熱、献身、熱意、そして温かさがなければ、このような素晴らしい大会は実現しなかったこと

でしょう。

さらに、日本からお越しくださった教育者・学生の皆さんにも、心からの敬意と感謝を申し上げます。

英語で研究発表を行うという挑戦に果敢に取り組まれたことは、まさに称賛に値する素晴らしい成果です。

他言語で自分の考えを表現することの難しさ（たとえ Google 翻訳があっても！）を私もよく理解しています。

皆さまの専門性と創造性を共有してください、本当にありがとうございました。私たちは多くの学びを得ることができました。

9月18日には、さまざまな学校を訪問する機会を設けましたが、サンフェルナンド・バレーにおける多様な教育アプローチやプログラムを楽しんでいただけなら幸いです。

ツアーワークの最後に、私たちの LA ピアス・カレッジ附属チャイルド・ディベロップメント・センターを紹介できたことを、特に誇りに思っております。

また、アンザ・ホテルにご宿泊された

多くの日本の先生方が、滞在を楽しまれましたと伺い、とても嬉しく思いました。

トレーダー・ジョーズでのお買い物も楽しんでいただけましたでしょうか？

そして、ドジャースはいかがでしたか？

9月21日、私たちは皆で「Go Dodgers!」と声援を送りました。試合には負けてしまいましたが、あの日の観戦はとても楽しく、忘れられない思い出となりました。

第46回 IAECE 年次大会が皆さまに好評をいただけたことを、心より嬉しく思っております。

ロサンゼルスでの時間が、皆さまにとってかけがえのない思い出、意義ある出会い、そして新たなインスピレーションにつながっていれば幸いです。

最後に、この大会が今後も、教育者・学生・地域社会をつなぐ真のグローバルな架け橋となり、そして何よりも、すべての子どもたちをつなぐ力となることを、心より願っております。

心からの感謝を込めて

八谷 美幸



第46回大会 年次大会を終えて 神戸親和女子大学 福井 逸子

国際幼児教育学会第46回のアメリカロサンゼルスでの大会は、無事に終了致しました。

私は、第44回のタイ大会に引き続き、日本側の事務局長として、この度も大役を引き受けましたが、今回の大会は、途中の段階から、昨年度の第45回大会、千葉大会の実行委員長をされた古賀琢也先生、来年度第47回大会、浜松大会の実行委員長二宮貴之先生、同じく事務局長上田浩平先生にもお力添えを頂き、4人5脚で共に頑張り、乗り越えることができたと思っています。

特に、準備中、大変だったことは、ロサンゼルスと日本の時差でした。この度

の現地の大会を支えて下さった海外理事、八谷美幸先生との相談が真夜中になることもしばしばあり、すっかり夜型になりましたので、私自身、ロサンゼルスから日本に帰国してからも、時差に悩まされることはありませんでした。当初は、参加者が20名くらいかと予測しておりましたが、ドジャース観戦のエクスカーションの宣伝効果もあったためか、最終的には、50名近くの参加者（正式には48名）を募ることができました。

現地の温かなおもてなしに浸り、充実した大会期間を過ごすことができましたことに、心から感謝申し上げます。

この学会参加で習得した新しい英語

名古屋学芸大学 ヒューマンケア学部 加藤 望

国際学会への参加で面白いと感じるのは、これまで知らなかった言葉や概念、制度等に触れる瞬間があることです。今回も、米国からの参加者や訪問先の保育者からたくさんのこと教えてもらいました。その中から、私が新しく習得した言葉と制度を二つ紹介します。

一つ目は、*Neurodivergent* で、これは日本語では一般的に発達障害と表現されることが多い概念に対する言葉です。発達の凸凹を障害と捉えるのではなく、神経発達 (neuro) の多様性 (divergent) であると捉えて表現される言葉です。調べてみると、日本でも経済産業省で取り入れられ、大きな企業ではすでにこの概念を受け入れて、誰にも働きやすい会社

づくりを目指していました。

二つ目は、*Shadow* で、これは特別な支援を必要とする子どもを援助する人を指します。日本の場合には、保育施設側が保育者を加算配置しますが、米国の場合にはそうした社会制度ではなく、*Shadow* を派遣する会社があり、保護者が派遣依頼をします。利用料金は保護者負担ですが、利用は保育施設内だけに留まらず、家庭での日常生活もサポートしてくれます。

“What’s mean?” “How do you support for special needs children?” という間違った英語で尋ねても、快く分かりやすい英語で回答してくれるロサンゼルスの皆さんにとても感謝しています。

New English Terms I Learned at This Conference

Nozomi Kato, Ph.D.

Associate Professor in the Department of Human Care
Nagoya University of Arts and Sciences

One of the most fascinating aspects of participating in international academic conferences is encountering words, concepts, and systems that I had never known before. This time as well, I learned a great deal from participants from the United States and early childhood educators at the sites we visited. Among these, I would like to introduce two terms and systems that were new to me.

The first is *neurodivergent*, a term often used in English to describe what is commonly referred to in Japanese as “developmental disabilities.” Rather than viewing developmental differences as impairments, this term expresses the idea of neurological diversity. Upon further research, I discovered that this concept has already been adopted by Japan’s Ministry of Economy, Trade and Industry, and that major companies are

working to create workplaces that are inclusive and comfortable for everyone.

The second term is *shadow*, which refers to a person who supports children with special needs. In Japan, additional staff members are typically assigned by the childcare facility itself. In contrast, the United States does not have such a public system; instead, there are companies that dispatch shadows upon request from parents. Although the cost is borne by the family, the support provided by shadows extends beyond the childcare setting to include assistance in daily life at home.

Even when I asked questions in incorrect English such as “What’s mean?” or “How do you support for special needs children?”, the people in Los Angeles kindly responded with clear and understandable English. I am truly grateful for their generosity and patience.



Learning From and With Others: Mina Kim, Ph.D.

Professor in the Department of Elementary Education
Graduate College of Education San Francisco State University

It was last year, when I first time learned about the IAECE conference. Back then, I was leading a Japan Study Tour with groups of early childhood educators from San Francisco and Los Angeles, and I was curious what Japanese scholars research and study in the field of early childhood education. That was my motivation to join the 46th IAECE conference in LA in 2025.

From the school visits to symposium, workshop, and poster sessions, the

conference had various format to deliver interesting topics and research, and it was a full of learning moments every second during the two days of the conference. I was impressed how much Japanese scholars and professionals spent their time to prepare their presentations in English, as they were easy to follow and understand. It was such a pleasure to learn various topics, psychological perspectives to practical implications. Thanks for the wonderful conference!

他者から学び、他者と共に学ぶ サンフランシスコ州立大学 キム・ミナ

IAECE 会議について初めて知ったのは昨年のことでした。当時、サンフランシスコとロサンゼルスの幼児教育者グループと日本スタディツアーを率いており、日本の研究者が幼児教育分野でどのような研究を行っているのか興味がありました。それが、2025 年にロサンゼルスで開催される第 46 回 IAECE 会議に参加しようと思ったきっかけです。

学校訪問からシンポジウム、ワークショップ、ポスターセッションまで、会

議は様々な形式で興味深いトピックや研究が紹介され、2 日間を通して学びの連続でした。日本の研究者や専門家の方々が英語でのプレゼンテーションの準備にどれほどの時間を費やしたかに感銘を受けました。プレゼンテーションは分かりやすく、理解しやすいものでした。心理学的な視点から実践的な示唆まで、様々なトピックを学ぶことができ、大変有意義でした。素晴らしい会議をありがとうございました！



Education as Relationship: Broadening Comparative Research Hyejin Do

San Francisco State University (MA, Early Childhood Education; Alumna)

As an educator with international teaching and research experience across South Korea, the United States, Mexico, and Japan, I found this 46th Annual Conference especially valuable.

Conversations with Japanese scholars, whose works advanced proactive, interactive, and deep learning for young children, sharpened my comparative perspective as I was inspired by their

cross-institutional collaborations. When I presented my study of children's narrative-based creativity with storytelling, I gained substantive perspectives that expanded my understanding of such. The questions and conversations with audiences offered a meaningful insight that clarified my central takeaway: children's creativity is relational and context dependent.

Moreover, the symposium presentation on *Mimamoru* ('teaching by watching') anchors my next comparative study: how teachers—between Korea and Japan—enact autonomy to nurture children's interests within play-based curricula, viewed through an ecological lens. I hope to deepen these research insights and continue sharing them at upcoming conferences.



関係性としての教育：比較研究の広がり

サンフランシスコ州立大学 (修士課程 修了生) ヘジン・ド

韓国、アメリカ、メキシコ、日本での国際的な教育・研究経験を持つ教育者として、今回の第46回年次大会は非常に有意義なものでした。日本の研究者との対話を通じて、彼らの研究が幼児のための主体的・対話的・深い学びを推進していることを知り、学術機関を越えた協働に感銘を受け、比較的な視点が一層研ぎ澄ました。

私は物語を通じた子どもの創造性に関する研究を発表し、その過程で理解を深めるための実質的な視点を得ることができました。聴衆との質疑応答や対話は、私の中心的な気づきを明確にしてくれまし

た。それは、「子どもの創造性は関係性に基づき、文脈に依存する」ということです。さらに、シンポジウムで紹介された「見守る (*Mimamoru*)」という教育法 (=見て教える) は、私の次の比較研究の出発点となります。韓国と日本の教師が、遊び中心のカリキュラムの中で、子どもの興味を育むためにどのように自律性を發揮しているかを、生態学的な視点から探究する予定です。

これらの研究的洞察をさらに深め、今後の学会でも共有していきたいと考えています。



Flannel Board and Storytelling Workshop

Traci D. Drelen

Professor, Child Development
Pierce College, Woodland Hills, California – USA

WORKSHOP

The hour-long workshop began with a brief history of flannel board stories, the importance of play and the contribution that both make to all domains of children. Attendees were given materials to make their own flannel story as a "make and take" during the meeting. The creation of felt apples and worms with the lesson of prepositions was enjoyed by all.

Professor Drelen and Professor Christianson (LA Pierce College) demonstrated both song and stories with felt for the thirty attendees. Many of the flannel activities were inclusive, attendees delighted in coming up to the flannel board and adding their pieces to complete the story or song.



フランネルボードとストーリーテリング・ワークショップ ピアス・カレッジ トレイシー・D・ドレン

1 時間のワークショップは、フランネルボード物語の簡単な歴史、遊びの重要性、そしてそれらが子どものあらゆる領域に果たす役割についての紹介から始まりました。参加者は会議中に「作って持ち帰る」活動として、自分自身のフランネル物語を作るための材料を受け取りました。前置詞の学習を取り入れたフェルトのリンゴとミミズの

制作は、皆に楽しまれました。ドレン教授とクリスチャンソン教授 (LA ピアス・カレッジ) は、30 名の参加者に向けてフェルトを使った歌や物語を実演しました。多くのフランネル活動は参加型であり、参加者は喜んでフランネルボードの前に出て、自分のピースを加えて物語や歌を完成させました。



WORKSHOP

音楽ワークショップ

聖隸クリストファー大学

二宮 貴之

ロサンゼルス大会では、現地の保育者や地域の方々、学生、研究者らが心を一つにし、音楽を通じて国境を越えた交流が実現しました。音楽部会テーマは「日本とアメリカを繋ぐ音楽の架け橋」。コーディネーターは二宮貴之（聖隸クリストファー大学）が務め、リトミック講師として入江眞理先生（静岡産業大学）、上田浩平先生（近畿大学九州短期大学）、音楽表現講師として福島さやか先生（福

岡女学院大学）、桐山由香先生（大阪青山大学）、二宮貴之、ピアニストとして本野洋子先生（東京福祉大学）が参加して下さいました。

第1部「リトミックの音楽活動」、第2部「音楽表現」では、わらべうたや風鈴の聴き比べなど多彩な実践が展開され、笑顔に包まれた温かく豊かな時間となりました。



WORKSHOP

紙コップワークショップ

東海大学

天野 美和子 三沢 大樹 (写真)

カンファレンス初日の最初のプログラムとして、「協働と気づきのワークショップ」を実施しました。本ワークショップは、日頃、私が大学の授業の中で行っている実践を基盤とし、用意した 3,500 個すべての紙コップを使って全員で一つの作品をつくることを目標に取り組みました。20 名ほどの参加者は、日本の幼児教育の基本である 5 領

域を踏まえて、「5 歳児になったつもりで遊ぶ視点」を共有し活動を始めました。活動が進むと自然に声を掛け合い、積む・つなぐ・囲むなど多様な動きが広がり、全ての紙コップを使った大きな作品作りに発展しました。紙コップが崩れた場面では歓声や笑いが生まれ、立て直しを相談する様子には、協働の楽しさや難しさが表っていました。



こうした過程には、素材がもつ表現の広がりや言葉のやり取りの大切さなど、多くの気づきが含まれていたよう

に思います。シンプルな素材が参加者をつなぎ、学びの可能性を体験する時間となりました。

WORKSHOP

造形ワークショップ

廿日市市認可保育園 アトリエ REI レイこども舎
岡本 礼子

2日目に行われた造形ワークショップ(WS)では、30名以上の参加者があり、和やかに開催されました。

WSに入る前に「アトリエ REI レイこども舎」の「生きた線、心の色」の子供の描画の様子を動画で紹介しました。アメリカでは乳児の保育は一般的ではないようで、乳児の描画の様子には、特に興味を持って見てくださっていたように思います。探求的表現としての絵を描く活動は、子供たちの意欲からはじ

まること、そして描きたくて画家を続いている私自身と繋がっていることを紹介しました。大会の実行委員メンバーである八谷美幸先生が言葉を補足してくださり、私の思いを丁寧に伝えてくださったことに感謝いたします。

WSでは日本の画材(顔彩、筆、和紙等)を持参し、それぞれ参加者の「生きた線、心の色」での表現をしていただき、皆さまの斬新な発想で、活気溢れる楽しいWSとなりました。



幼児教育施設見学

Los Angeles Pierce College Child Development Center

ピアス大学付属幼稚園見学に参加して

廿日市市認可保育園 アトリエ REI レイこども舎
岡本 礼子

私は、ピアス大学の付属保育園について紹介いたします。

大学の一角にある素晴らしい落ち着いた空間に感動いたしました。それは、残念ながら今期を持って退官され、この度の大会で、重要な開催メンバーのお一人

である八谷美幸先生が、これまで大事に環境つくりをされてきた保育室であり、一日を心地よく過ごす子供たちの様子が容易に想像できる空間でした。生活の中に本物を溶け込ませる空間つくりは、私自身もとても大切にしています。このピ



アス大学の保育園は、それぞれのクラスの担当である指導者のイメージから、クラスの空間つくりが考えられていました。美しく構成された空間で日々過ごすことは、子供たちの美意識を育てます。室内には、様々な素材が使われています。

た。遊びが、子供自身のイメージで遊び込まれるように工夫され、貝殻、陶器、木製など自然を土台にした本物が環境の中にちりばめられており、是非、帰国しての生活空間を見直すきっかけとしたいと思いました。



〈公立園〉Nestle Elementary State Preschool

プリスクールツアーに参加して

廿日市市認可保育園 アトリエ REI レイこども舎
羽戸 千香子

この度スクールレビットに参加して、ロサンゼルスの私立・公立園のプレスクールを見学する貴重な機会を得ました。公立園である Nestle Elementary State Preschool の見学は興味深く、印象に残りました。園では月ごとにテーマが設けられており、その月のテーマは「りんご」が設定されました。室内には、実物のりんごが子どもたちの手に取れるように置いてあり、ライフサイクル、色、味、香り、果実の構造など実物に触れながら、さまざまな視点からりんごはどういうものかを子どもたちが五感を通して知る取り組みが行われていました。また壁面にはマインドマップが掲示されており、中心円に“What do we know about apples?”と子どもたちに対しての問い合わせ、その周囲には保育者と子どもたちのやり取りの記録がありました。保育者と子どもたちの対話の中でも「りんご」という1つのテーマを多角的に捉え、学びを深める工夫が感じ取られました。

戸外のオーガニックガーデンでは様々な植物が栽培されており、果樹の中にはりんごの木もありました。そこでは週に一回ガーデンの専門家の先生が来て子どもたちと一緒に庭づくりをしているそうです。とても美しく整えられた庭に一見無秩序に植物が植えられているような場所もありました。庭づくりでは子どもたちも植物の植え方に関する意見が見え、時に失敗することがあっても失敗を学びとして庭づくりを進めていくそうです。庭づくりを通した主体的な課題解決型の学びの場となっていることを感じさせられました。庭の一角にはクラスの子どもたち全員が座れそうな大きなテーブルと椅子、流し台が備え付けられていました。雨の少ないカリフォルニアでは戸外での活動がとても充実しています。自分で育てた食物を収穫し、食べる。五感を通して体験的な学びは室内・戸外の環境を通して一貫して行われていました。



〈私立園〉Weekday Preschool

プリスクールツアー Weekday Preschool に参加して

廿日市市認可保育園 アトリエ REI レイこども舎
林 友美



教会の敷地を通り抜けるとまるで公園のように遊具がバランスよく設置された園庭が見えてきました。りんごの赤いシンボルマークと緑の芝生とのコントラストが素敵な雰囲気でした。園の説明のなかで印象に残っているのは保護者とのパートナーシップです。保護者が積極的に園を理解しようとしたり支援をしていくことが分かりました。クラスの年間計画を見ると両親との懇談日の他に母と祖母の見学日、父と祖父の見学日が設けられており、園と家庭との精神的な距離感

の近さを感じました。私の勤務している園でも給食試食会と同時に保育参観があり、今年度は多数の保護者の方にご参加いただきました。実際に子どもたちの活動のなかに入って過ごしていただくなからで保育の工夫や子どもたちのもっている素晴らしさなどをお伝えできました。歴史や文化、そして市民性が違うアメリカの保育ですが、子どもを通して園と保護者が同じ目線に立ち協力関係を築いていくことは、日本の保育のなかでも大切にしていきたいと思いました。





2026年度 一般社団法人 国際幼児教育学会 第47回大会

静岡(浜松)大会のご案内

第47回大会実行委員長 聖隸クリストファー大学 二宮 貴之

第47回国際幼児教育学会(IAECE)大会は、2026年9月18日(金)、19日(土)、20日(日)の3日間、静岡県浜松市の聖隸クリストファー大学を会場として開催いたします。

18日(金)は、海外から参加される方を対象としたスクールビジットを予定しております。日本からご参加の皆様は、19日(土)・20日(日)の研究大会にご出席いただけます。大会では、基調講演、シンポジウム、口頭発表、ポスター発表など、多彩なプログラムを通じて、幼児教育に関する最新の研究や実践の成

果を共有し、国際的な対話と交流を深めてまいります。

今後、実行委員会が正式に立ち上がり、詳細な日程や申込方法などの情報が、学会ホームページにて順次公開される予定です。どうぞ今しばらくお待ちください。

豊かな自然と文化に恵まれた浜松の地で、世界各地の研究者や実践者の皆様と再びお会いできることを心より楽しみにしております。周囲の方々をお誘いあわせの上、多くの皆様のご参加をお待ち申し上げます。

テーマ：子どものウェルビーイングを考える

会期 2026年9月18日(金)～20日(日)

会場 聖隸クリストファー大学

研究大会は9月19日(土)、9月20(日)に行います

※9月18日(金)はスクールビジットを実施しますが、受け入れ先のキャパシティの関係で海外からお越しの方に限定させていく予定です。



● プログラム

基調講演

研究発表

- ・口頭発表(母国語)
- ・ポスター発表(英語)
- ・ワークショップ(絵本・音楽・造形)予定



● アクセス

・浜松駅からバスorタクシー
・お車でお越しの方は大学に駐車場があります

● 大会登録方法について

・System:Peatixで行う予定で準備中です。
※学会ホームページなどで随時お知らせして参ります。



IAECE Official HP : iaece.jp

International Association of Early Childhood Education
47th Annual Conference in Shizuoka, Japan

Exploration and Coexistence for Nurturing Children's Well-being

● Overview

Date: September 18 (Fri) – 20 (Sun), 2026

Venue: Seirei Christopher University, Hamamatsu, Shizuoka, Japan

Organizer: International Association of Early Childhood Education

● Program (Tentative)

Keynote Lecture

Symposium

Research Presentations (Tentative)

- School Visits
- Oral Presentation
- Poster Presentation



● Access

- From JR Hamamatsu Station: Bus or taxi
- By car: Free parking available on campus

● Registration

- System: Peatix (planned)
- Conference Website: To be launched in Winter 2025 via IAECE official homepage



【IAECE Official Website: <https://iaece.jp/>】

2024年度決算報告 (2024年8月~2025年7月)

一般会計予算

単位：円

特別会計	学会功劳賞	収入の部			支出の部				
		予算額	決算額	差額	予算額	決算額	差額	備考	
		前年度繰越金	1,306,766	1,306,766	0	学会賞副賞	7,500	13,876	6,376 副賞
		その他収入	0	0	0	次年度繰越金	1,299,266	1,292,890	-6,376
特別会計	松原・金崎賞	合計	1,306,766	1,306,766	0	合計	1,306,766	1,306,766	0
		収入の部			支出の部				
		予算額	決算額	差額	予算額	決算額	差額	備考	
		前年度繰越金	2,191,539	2,191,539	0	学術賞副賞	50,000	0	-50,000
一般会計	収入の部	その他収入	0	0	0	次年度繰越金	2,141,539	2,191,539	50,000
		合計	2,191,539	2,191,539	0	合計	2,141,539	2,191,539	0
		予算額 (A)	決算額 (B)	差額 (B) - (A)				備考	
		前年度繰越金	2,587,381	2,587,381	0				
		会費収入		2,275,000				正会員内訳	
		(1) 正会員		2,275,000				7,000円×323人	
		(2) 機関会員						14,000円×1人	
		(3) 賛助会員						21,000円×0人	
		ジャーナル投稿料	0	0	0			28,000円×0人	
一般会計	支出の部	広告収入	0	0	0				
		売上収入	0	0	0				
		利子	100	2,825	2,725				
		雑収入(寄付等)	0	358,705	358,705				
		合計	4,687,481	5,223,911	536,430				
		予算額 (A)	決算額 (B)	差額 (B) - (A)				備考	
		事業費	970,000	961,752	8,248				
		① 大会費	500,000	500,000	0				
		② 機関誌	320,000	388,080	68,080				

2025年度予算 (2025年8月~2026年7月)

一般会計予算

単位：円

収入の部		支出の部	
費目	予算額	費目	予算額
前年度繰越金	3,353,857	事業費	1,140,000
		①大会費	600,000
		②機関誌	390,000
会費収入	2,200,000	③会報	80,000
(1) 正会員		④研究会	20,000
(2) 機関会員		⑤支部・部会費	50,000
(3) 賛助会員		会議費	20,000
		印刷・製本代	20,000
		人件費	100,000
		交通通信費	50,000
広告収入	0	消耗品費	20,000
売上収入	0	諸雑費	450,000
利子	100	委託費(学会HP)	200,000
		委託費(会員システム)	450,000
その他	0	外部監査費	100,000
雑収入(寄付金等)	0	次年度繰越金	3,603,957
合計	5,553,957	合計	5,553,957

特別会計(学会功劳賞・学術貢献賞)

単位：円

収入の部		支出の部	
費目	予算額	費目	予算額
前年度繰越金	1,292,890	2024年度副賞	7,500
その他収入	0	次年度繰越金	1,285,390
合計	1,292,890	合計	1,292,890

特別会計(松原・金崎賞・研究奨励賞)

単位：円

収入の部		支出の部	
費目	予算額	費目	予算額
前年度繰越金	2,191,539	2025年度副賞	50,000
その他収入	0	次年度繰越金	2,141,539
合計	2,191,539	合計	2,191,539

学術貢献推薦委員会

今年度には、本学術貢献賞推薦委員会の立ち上げ以来、初めてとなる受賞候補者が選出され、本委員会において厳正なる審査が行われ、受賞者が決定いたしました。候補者の選出および審査等にお力添えを賜りました皆様に、心より御礼申し上げます。

さて、今年度の新体制がスタートいたしましたが、

委員長 東海大学 天野 美和子

今期も引き続き学術貢献賞推薦委員長を務めさせていただることになりました。本委員会では、幼児教育分野において、国内外の実践や政策面に学術的なインパクトを与えた研究者・実践者を称えることを目的に、今後とも誠心誠意努めてまいります。今期もどうぞよろしくお願いいたします。

涉外委員会

今年度から「涉外研修委員会」委員長を担当することになった劉郷英です。何卒宜しくお願ひ致します。今年度の予定は以下のとおりです。

まず、海外（中国、韓国、アメリカ等）の副会長

委員長 福山市立大学 劉郷英

や理事の先生方と密接に連携を取りながら、国内の研究委員会と協力し合い、「学術貢献賞」を受賞した中国「安吉遊戯=Anji Play」創始者の程学琴先生の受賞講演会を企画する予定です。

海外研修委員会

国際幼児教育学会の新体制におきまして、海外研修委員会委員長を仰せつかりました森貞美です。世界各国の幼児教育・保育に高い関心を持ち、様々な国際協働や国際交流を行っておられる会員の皆様と

委員長 麗澤大学 森貞美

ともに、海外の研究者や実践家との交流がより盛んになるよう努めてまいりたいと存じます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

定款・規程検討委員会

定款・規程検討委員会では、毎年行われております年次大会において、学会発表者を表彰する仕組みを検討してきました。この度皆さまのご協力のもと、「大会発表賞」の規程を制定することができました。

委員長 福岡県立大学 伊勢慎

2026年度に開催されます第47回大会から運用されることとなりますので、皆さまのご発表を心よりお待ちしております。

機関誌編集委員会

国際幼児教育研究第32号が発刊され、すでに皆様のお手元に届いているかと思います。本号では合計28本の投稿がなされ、そのうち厳格な査読を経て13本の論文が採択されました。

2025年1月には第33号への投稿が始まります。機関紙を引き続き盛り上げていきたいと思っておりま

委員長 関西国際大学 棚田善之

す。ご投稿をご予定の方は、学会ホームページや学会マーリングリストでお知らせいたしますので、ご準備ください。なお、2026年に発行される33号以降、電子ジャーナルに変更になるため、規定が変更になる可能性があります。最新の規定内容についてはホームページをご確認ください。

研究委員会

研究委員会による研究会は第58回を迎えました。2025年8月1日、亀山秀郎先生（認定こども園七松幼稚園理事長・園長）先生より、演題「ESDを視野に入れたICTを用いた保育・幼児教育の実践」の講義をいただき、今の時代に生きる子どもたちと生活を共にする実践について語っていただきました。会員・非

委員長 東京家政大学 野口 隆子

会員の方々にご参加いただき、学びを共にする機会となりました。次回は天野美和子先生から2019年学術賞受賞とその後のご研究についてご講演いただきます（1月31日開催予定です）。皆様のご参加をお待ちしています。

情報委員会

社員総会を学会メインサイト上で開催いたしました。また、公式YouTube「IAECEチャンネル」では、研究会等の動画を配信しております。メインサイト右上のアイコンからアクセスできますので、ぜひチャンネル登録をお願いします。新しい動画を公開した際には、メインサイトとメーリングリストで

委員長 共立女子大学 境 愛一郎

も告知させていただく予定です。なお、メーリングリストは、Googleの仕様変更により登録や配信が滞る現象が続いているため、見直しを検討しております。ご不便をおかけいたしますが、なにとぞご理解の程お願い申し上げます。

会報委員会

新体制の元、会報のデザインを一新しました。WEBの会報として、日本内外の配信ができるようになりました。多くの国際幼児教育学会の会員の皆様に読んでいただき、幅広い情報を得ていただきたい

委員長 アトリエ REI レイこども舎 岡本 礼子

と思います。この会報は、会員の皆様からの情報を期待しております。海外在住の皆様、保育情報を土台にした情報を寄せください。
(件名/テーマ/okamotoreiko2010@yahoo.co.jpまで)

支部報告

九州・沖縄・山口支部

2025年6月15日に支部会を開催いたしました。5名の参加ではありましたが、濃い情報交換が出来ました。次回の支部会は2026年3月に開催予定です。今

支部長 近畿大学九州短期大学 久世 安俊

Yamaguchi Kyushu Okinawa Tochigi
後の活動内容、研究会の開催など検討したいと考えております。案内につきましては、年明け1月末にお知らせいたします。

IAECE Branch Report

絵本部会

絵本部会は大会時にワークショップやシンポジウムを行い、参加者と共に絵本（2023年のバンコク大会では紙芝居）をモチーフにこども文化を楽しんでいます。2024年の千葉大会では「絵本の読み語りあれこれ」というテーマで中国、台湾、アメリカ、日本からの参加者と活発な意見交換を行い、その中で絵本は高齢者も楽しめるというお話を出ました。そこで、2026年の静岡大会では、バリアフリーやユ

絵本部会長 山梨県立大学 山田 千明

ニバーサルデザイン等、絵本の楽しみ方の幅を広げた企画を考え、今年度はそれに向けての情報収集や話し合いを行う予定です。また、学会 Web サイトで過去の「絵本部会通信」が閲覧できますので訪れてみてください（https://iaece.jp/?page_id=1056）。随時ご興味のある皆様の参加をお待ちしています。

【絵本部会 参加申し込み先】

wakasa5hr@gmail.com（山田 千明）

音楽部会

音楽部会長 聖隸クリストファー大学 二宮 貴之

音楽部会は、各年次大会の中でワークショップを開催しています。近年のワークショップでは、幼児教育における領域「表現」の内容と整合性のある、歌唱、器楽、リズム遊びなどのワークショップを日本国内及び海外で実施しております。音楽表現に興味、関心のある

方々はどなたでも音楽部会に参加していただけますので、下記アドレスまでご一報下さい。宜しくお願ひいたします。

【音楽部会 参加申し込み先】

takayuki-n@seirei.ac.jp（二宮）

造形部会 **NEW!**

廿日市市認可保育園アトリエ REI レイこども舎 岡本 礼子

諸先生方をメンバーに迎え、今期より造形部会が理事会で承認されました。47回静岡大会に向け、ワークショップを予定しており、保育、教育にアートが重要であることを伝えていきたいと考えています。WEB配信の委員会も予定しており、造形部会に興味のある方はぜひメンバーになってください！

【造形部会 参加申し込み先】

okamotoreiko2010@yahoo.co.jp（岡本）

件名：造形部会 参加申し込み

名前・所属先・ご連絡先・メールアドレスを明記の上、お申し込みください。

【本部】廿日市市認可保育園アトリエ REI レイこども舎
〒738-0001 広島県廿日市市佐方 639-1

会員の方からの原稿を募集しています

- 1) 海外の幼児教育の現状の紹介
- 2) 日本語で読める海外の幼児教育著書の紹介

- ◎字数 300 字程度（Word MS 明朝 10.5）
- ◎所属先、氏名の記載を忘れずにお願いします。
- ◎掲載画像も一緒に送付ください。
(メールに貼り付けるのではなく、添付にて送信)
- ◎〆切り厳守をお願いします。
- ◎校正は一度のみで、誤字脱字の確認となります。
原稿チェックは提出前にお願いします。

発 行 人：上田 敏文

企画編集人：岡本 礼子 加藤 望

発 行 所：一般社団法人

国際幼児教育学会 事務局

〒448-8542

愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢 1

愛知教育大学 幼児教育講座

櫻井貴大 研究室

E-mail : iaece.office@gmail.com

〈応募先〉

岡本 礼子 : okamotoreiko2010@yahoo.co.jp

www.iaece.jp